

お安心とごらるおの下の町川の手をめぐりて

No. 11



# 防災 まちづくりの夏版

発行「一寺言問を防災のまちにする会」

昭和62年7月1日



提案書の内容を説明する副武会長 - 墨田区庁舎で

## まちづくり計画を区長に提出 区長 積極的な後押しを約束

昨年来検討を重ねてきた「一寺言問の防災まちづくり計画」が、六月二日、奥山澄雄区長に手渡された。

計画は、一寺言問地区の防災まちづくりの基本的な方針と、それらを進めるための姿勢を示したもので、「一寺言問のみち」づくり、墨堤の再生、寺社や公共施設の応急利用など、十四項目の内容が盛り込まれている。一言会では、これらに加えて計画推進のために早速取り組んでほしいものとして、①東向島一丁目の高田製菓跡地（約三百坪）の早期買収 ②隅田川沿いの道や公園の改良 ③墨堤通り沿いの大工場等の緑化指導 ④旧墨堤之道の遊歩道化、など七項目を特別に要請した。

区長は、二の計画に基づいてまちづくりをすすめていくことを約束した。一言会は、計画の具体化に向けて個別の検討にはいる。

### 副武一言会会長の談話

本日、私を含めた六町会の町会長さん及び理事の方々、そしていろいろの理事の方々のご協力をいただき、無事区長提案を済ませることができました。何かひとつの大きなハードルを越えた思いです。

奥山区長には、一寺言問地区の特性をよくご理解していただき、行政サイドからの積極的な後押しを約束していただきました。

私としてはこのまうづくりの仕事を、「相手を信頼し、また相手に自分を信頼していただく」というおなりの人生観のまごめにしていきたいと考えております。

住民同士のつながりを大切に保てるまちづくりをめざし、より多くの方々のご理解をいただくように、誠意を持って今後の活動にあたりたいと思います。

## 旧墨堤之道の遊歩道化など計画の具体化へ

六月二日(火)二時より区長室において、「一寺言問の防災まちづくり計画」が副武勝副会長から奥山墨田区長に手渡されました。区長から「単にモデル地区で終わってしま、ては仕方がない。本当の意味でモデルになり得るようには、区もこの計画に基づいてまちづくりを進めていきたいと考えています」と、あいさつがありました。

いくぶん緊張気味だった一言会

昨年十二月の一言会発足以来、検討を重ねてきた「防災まちづくり計画」が、このほどまとまった。当初の原案に比べて大きく変わっていないものの、よく見ると細かな表現方法に至るまで修正、加筆され、計画検討の一念さが伺える。

のメンバーに、区長が「この計画を提出したことで一言会が解散するということはないでしょうね。これからですから、その辺が一番気がかりです」といった一言で一同爆笑。リラククスできたところで、区長との懇談会に移りました。開発促進課の長塚課長から一言会のメンバー紹介後、副武会長のあいさつに始まり、須賀事務局長から一言会とわいわい会の説明がありました。

④路地専の設置などについて、個別の検討がはじまるものと思われる。またその検討は、関係住民、関係各機関が協議する場が設定され、おこなわれるものと思われる。「できるだけ早く具体化した」「じっくりと協議したい」、まち

現在子育て中のメンバーより、「子供たちが大きくなって、このまちで育って良かったと思えるようなまちづくりをしていきたい」と、未来に向けての抱負が述べられ、また「寺社、旧跡など歴史的に由緒あるものを他地区にも誇れるようなものとして大切にしていきたい、それをこの地区の活性化にも役立てていくようにできたら」という意見がありました。

長老格のメンバーより、「まちづくりとはあせらず時間をかける專業だが、自分たちが健在のうち、ひとつでも実現できるものは、やっていきたい」と、意欲的な発言もありました。その他、一寺言問地区の交通の便を改善してほしいという要望も出されました。

三十分ほどの懇談会は、笑い声のある和やかな雰囲気で行われました。「若木菊枝」

今後この計画に基づいて防犯ま...

ちづくりが進められていくことにならぬが、計画文にもあるように、「住民同士のつながりを大事にしなから」「できることから少しずつ」「住民と行政が協力しなから」「個別の計画が検討され、早く具体的な成果があることを期待したい。」

一言会では当面の取り組みとして、七項目を区に申請した。一言会の今後の具体的な取り組みについては、まだ明らかになっていないが、これまでの議論や区への提出書を見ると、恐らく①旧墨堤之道の遊歩道整備 ②地蔵坂通りの安全対策 ③墨堤の桜再生計画

# モデル生垣第一号誕生

## ブロック塀を造るより安い？

このたびは生垣を造った東向島一丁目の倉兼さん宅で、奥さんの恵実さんのお話を伺いました。

「このあたりは、工場や商店が多いせいかな、町並みに緑が少なく、ブロック塀が目立ちます。私の家も以前はブロック塀でしたが、古くなると上、家の前の通りが通字路なので、万一崩れて子供達が怪我でもしたら大変だ、と家族全員で話し合、ていたところ、区から生垣の助成金が出ることを聞き、生垣を造りました。角地で生垣の延長も長いので、助成してもらって助かりました。」

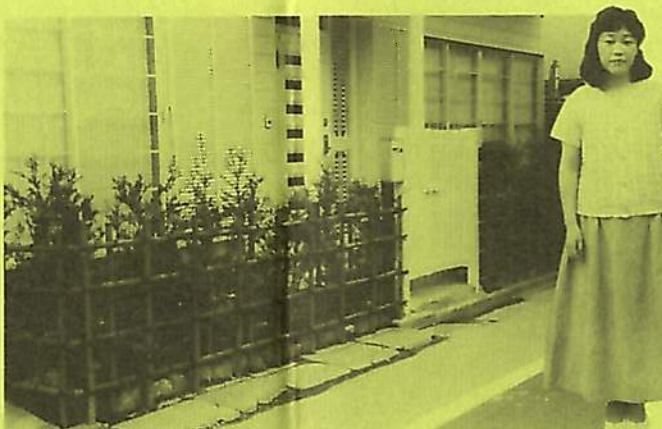
生垣にしたら、塀の時と比べて明るくなり、家の中から毎日緑を見るのができるので、気分も落ち着きます。また道行く人も生垣をよく見てくれます。

このあたりも古い家が多いので、建て替えの時に、できるだけ緑を

れにしても計画がまとまり、区長に提出したことで、まちづくりはいよいよ本格的な段階にはいってきました。



倉兼恵実さん



入れるようにすれば、自分だけでなく、まわりの方々のためにもよいのではないのでしょうか。昨年の十月から一寺言問地区全域が緑化推進モデル地区になったので、区ではこの四月から生垣の設置や工場等の道路沿いを緑化してくれた方に、工事費の三分の二

# 当面の要請事項へ全文

私達「一寺言問を防災のまちにする会」は、今後引き続きこの計画の実現に向けて、防災まちづくりに取り組みしていきたいと思えます。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

一、まちづくり用地の確保  
木立密集地区の安全性を高めるために、このような土地であれば、まちづくり用地として確保していただきたい。確保にあたっては、用地提供者に不利益が生じないように対策を講じていただきたい。

二、高田製菓跡地の早期買収  
東向島一丁目三十番地の高田製菓跡地(約三百坪、現在未利用地)は、木立密集地区内にあり、第一寺言問小学校と言問小学校を結ぶ線路上にあるため、「一寺言問のみ」の整備用地として、また、防災広場用地として是非とも必要な土地である。防災まちづくりの推進のために、早期に買収していただきたい。

三、地蔵坂通りを安心して歩けるようにするための検討  
地蔵坂通りは、防災活動拠点(第一寺言問小学校)と主要幹線路(水戸街道・墨堤通り)を結ぶ防災上重要な道路であるが、いつも通車車両が多く、歩行者にとって危険な状態にある。安心して歩ける道にするための方法について、地元商店街と関係各機関の間で検討していただきたい。

四、臨田川沿いの道や公園の改良  
臨田川沿いの道や公園は、臨田川を眺められるところが多く、また薄暗いこともあって多くの人が訪れたくなる魅力的な場所になっていない。そのために浮浪者も多

程度を目安にした助成金を出す制度を作りまし。倉兼さん宅は、この制度を利用した助成第一号です。紹介しました。詳細は墨田区環境対策課緑化係(六二六一三三六一(内)90)にお問い合わせ下さい。【小山】

く、トラフルが絶えない。道や公園の照明や遊具、ストリートファニチャー(屋外家具類)、舗装材などを改良し、花見やレガッタ、花火などのイベント(催し物)の開催時期以外にも気軽に訪れられる「明るい場所」にしていただきたい。

五、持掃付近に水上バスの発着所設置  
私たちのまちには、臨田川七福神など多くの人が訪れるに値する観光資源が豊富にある。今後、墨堤の桜の再生により、それらが緑道を結ばれていけば、更に魅力的なものになるに違いない。そこで、近い将来臨田川を走ることが予定されている新しい水上バスの発着所(ステーション)を持掃付近(一寺言問地区寄り)に設置していただきたい。私たちのまちの公共交通の足を確保するためにも、是非計画に盛り込んでいただきたい。

六、墨堤通り右側の大規模敷地所有者に対する緑化の促進  
墨堤通りに桜を植樹するために、生垣に十分な空間を確保したい。そのために、沿道に大規模な敷地を有するアサヒビルや大林組(日本電気機器跡地所有)、東京都(都営住宅)等に対して、墨堤通りにある樹木などを後述していただくように要請していただきたい。あわせて持並木の道としてふさわしい持道部緑化を推進していただきたい。

七、旧墨堤之道の遊歩道化  
子言地蔵尊から白鬚神社へ至る道は、区内に現存する旧墨堤之道の名残りであり、かつて持並木が並ぶ、多くの花見客で賑わったといわれる。墨堤の桜再生は、まずこの道からおこなっていただきたい。利用特性を充分考慮して、道路構造の改良、路面等のメンテナンスをおこなう、遊歩道として整備していただきたい。

**おいしい情報を寄せて!**  
例えば、バーゲン情報とかイベント情報とか一寺言問地区に関する「それを、知らず得ずおいしい情報」をお寄せ下さい。連絡先は広報編集局員、若木(610-2653)まで。  
一言会では、まちづくりのための土地情報を求めています。地区内ならば、どのような土地でもご相談に応じます。連絡先は、一言会事務局、山本(816-4037)まで。なお、情報提供者に迷惑のたつことは致しませんのでご気遣いください。

# 私がまちづくりスタッフです



その九

東向一町所会長というより、テレビCM「うめしば」の製造御厨屋村岡食品の社長さんといったほうがなじみ深い村岡さん。

一言会副会長  
村岡 薫さん

四十年。その間、町会副会長十八年、漬物関係組合長、同連合副会長、同東京理事長を務められ、昭和57年には国家藍綬褒章を授章なさ、た真正正銘の企業人格者。一言会の副会長としても積極的に活動されている。二度の命びうい(25才の時、激戦地からの奇跡的生還と、八年前のクモ膜下出血の手術)に感謝の心と健康管理を兼ねて、毎朝のラジカカと日曜日の浅草寺朝詣はかかせないそう。【薫】

# ロジソンの隣にあったトマソン

「トマソン」って、知ってる? 「路上にある超芸術物体」なんだ。赤堀川原や南仲坊路上 墨堤学会のメンバーが名付けたんだ。元巨人軍のトマソンが、三振ばかりで役立たずだったことから、「トマソン」って。つまり、その超芸術物体は、東洋は役に立たないんだけど、存在が素晴らしいものなんだ。「別にやら難しくなってきたけど、例えば東京四谷にある昇、でも降りるだけで建物に入ることができない階段「四谷階段」(昔あった扉は、モルタルが何で塗りこめられちゃったみたい。写真で紹介できないのが残念)がそれ。ところで、ロジソン(路地蔵)の隣に、トマソンがあったのだ。とても短い木の柱。前から長くなっていたんだ。電柱らしいんだけど電線がついていない。でもどうみても昔なつかしい。あの電柱と、ところが、今そのトマソンが無いら。せ、かく思っていたら、そうしたら、やっぱりこの柱は昔の電柱(電話用ダコ)で、すでに役立たずになっているのに、立、ていて「緊急自動車の通行の障害になっている」「路地の安全を守るロジソン(路地蔵)の隣にそういうものがあるのほまずい」ということで取り除いた。写真相らしい。隅切りされてうれしいけど、ちょっと残念な気も。(俊)

一寺言問/防災まちづくり反版 第1号  
昭和62年7月1日  
企画編集/一言会反版編集局  
墨田区横綱1-6-1 墨田区庁整備部  
副総務課 室内 tel (626) 3151 (内655)

# 一寺言問の

## 防災まちづくり計画

—安心とつながるおいのまちをめざして

私たちのまち、一寺言問地区(墨田区東向島一・三丁目、堤通一丁目、向島五丁目)は、下町の風情を残すまち、歴史を感じさせるまちです。一方で、地震や火災など災害の危険を抱えるまちでもあります。私たちは、この愛するまちを、より安心して暮らせるよう思いのあるまちにしていきたいと、

### 1 まちの将来像

私たちは、「安心とつながるおいのまち」をつくりたい。それは、

①高齢者が住みやすく、若者も住みたくなり、子供たちに誇れるまち

②近所づきあいの良さを受けついで、まことりのあるまち

③地元の産業が活発な、賑わいのあるまち

④緑が豊かで、四季の変化を感じさせるまち

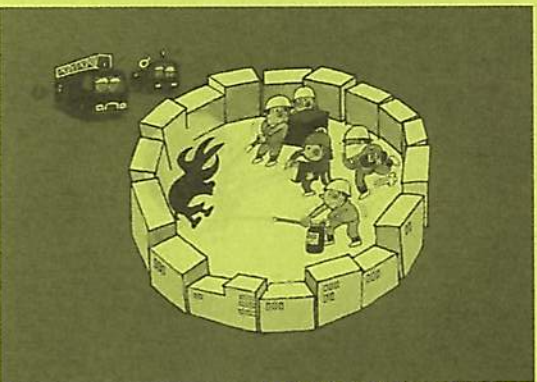
⑤人が訪れてきたくなるような、まちそのものが魅力的なまち

⑥そして、地震がいつきても安心して住める災害に強いまち

隅田川沿い(堤通一丁目・向島五丁目)は、明るくて現代的なイメージの、川と一体になったまちにしていきたい。



＜火を出さない、もらわない＞



＜災害に対応できるまち＞



### 2 防災まちづくりの目標

(1)火を出さない、もらわないまち  
私たちは、自分の家や近所から火を出さないまちにしたい。そ

して、隣のまちから火をもらわないまちにしたい。

(2)災害に対応できるまち

私たちは、力をあわせて防災活動をおこなえば、火の消せるまちにしたい。防災活動の拠点になる広場があり、防災活動に支障のないみちがあり、防災のための水が豊富なまちにしたい。  
(3)ぬくもりの感じられるまち  
私たちは、災害から生命と生活を守るために、助け合うことのできるまちにしたい。まちに暮らす人たちの暖かさを感じられるような、つながるおいのあるまちにしたい。

### 3 計画の内容

(1)木造密集地区の安全性を高めていく

一寺言問地区には、木造老朽家屋が密集し、災害の危険性が高いところが多い。木造老朽家屋の建て替えがすすむように、道路の整備、オーフンスペース(空地)の拡大を図り、まちの安全性を高めていく。

(2)延焼遮断帯を形成する

隣接地区からの延焼を防ぐため、

一寺言問地区の防災活動拠点にする。拠点の安全性を高めるために防災設備を充実させ、周辺建築物の不燃化をすすめていく。

(6)防災活動拠点に接続する道路を安全なものにする

防災活動拠点(一寺小と言問小)に接続する道路は、日常から親しまれ、防災活動に支障のない道にしていく。特に、二つの

(8)神社などを応急利用施設として結ぶ

東向島三丁目にある神社(白鬚神社、蓮華寺、去泉寺)や、都立施設(向島百花園、墨田川高枝)を災害時に応急利用できるようにしていく。また、それを結ぶみちは、沿道の緑化や落下物防止を積極的にすすめて、安心して歩ける散歩道にしていく。

(9)隅田川沿いの空間を魅力的にする

土地の権利変換、家屋の建て替

(12)路地専を置く

防災まちづくりのシンボルとして、地区住民が集う場所や建て替え、緑化などに関してルールをつく。ていこうとする路地などに、防災設備付き多機能情報板(路地専)を置いていく。

(13)防災まちづくりの学習、相談活動をすすめる

土地の権利変換、家屋の建て替

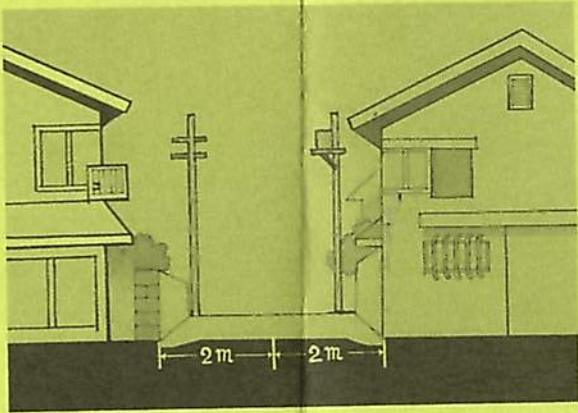
一寺言問地区の外周を形成する  
明治通り、水戸街道、墨中通り  
の沿道建築物の不燃化をすすめて  
いく。不燃化にあたっては、  
名所旧跡の景観を損ねないよう  
にしていく。また、樹木の持つ  
延焼遮断効果を生かし、沿道の  
緑化をすすめていく。

(3) 道路を広く利用する  
建築基準法を守り、前面道路の  
中心線から二メートル以上後退  
して建物や塀などの工作物をつ  
くるようにする。これを推進す  
るために、後退した建物の前面  
道路の側溝の整備や電柱の移設  
を逐次おこなっていく。また、  
地区内の主要道路を中心に、電  
柱の地下化をすすめていく。更  
に、不法駐車や道路にはみ出し  
た商品陳列をやめ、道路は道路  
として広く利用していく。

(4) 交差点の隅切りをする  
消防車のホースが地区全体に届  
くように、特に消防活動の支障  
になっている交差点を重点的に  
隅切りをしていく。

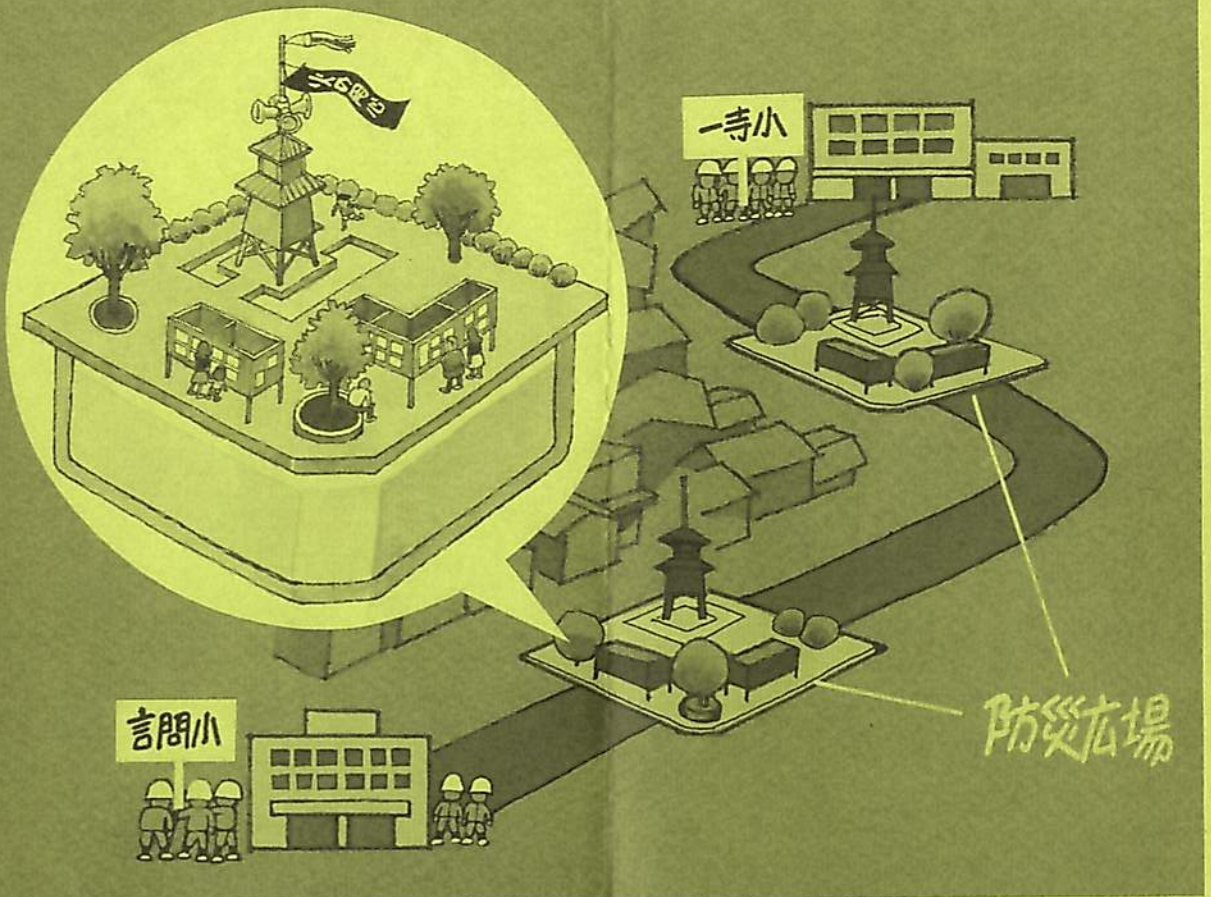
(5) 防災活動の拠点をつくる  
第一寺島小学校と言問小学校を

六メートル中に抜け、地区住民  
の生活道路（一寺言問のみち）  
として整備し、沿道一帯の安全  
性を高めていく。また、地蔵坂  
通りは自動車交通の少ない、買  
い物がしやすいみちを、墨堤通  
りに抜ける言問小学校前の道路  
は安全な通学路にしていく。



(7) 防災広場をつくる

防災活動拠点間の道路（一寺言  
問のみち）沿いに、防災無線や  
消防用水などの防災設備を備え  
た防災広場を二、三ヶ所整備し  
ていく。それは、単なる広場で  
はなく、周辺にうるおいを与え  
るようなデザインが施された広  
場にしていく。



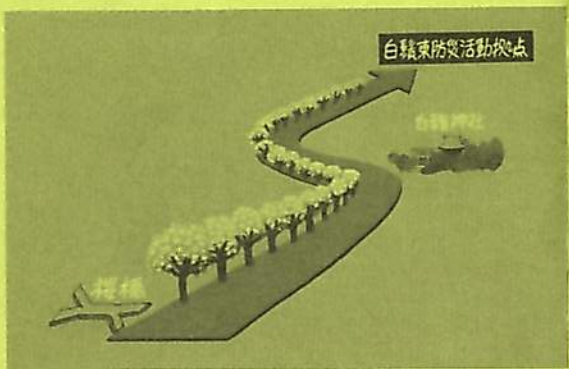
福田川沿いは、災害時には避難  
路になる可能性が高いため、避  
難に支障のないみち、公園にし  
ていく。そして、水面が眺めら  
れるところや墨堤通りから行き  
やすいみちを確保し、もっと市  
民が親しめるようにしていく。

(10) 墨堤の桜を再生する  
墨堤通りは、沿道建築物の不燃  
化をすすめて、広域避難広場（  
白鷺東防災団地）に向かう一番  
安全な避難路にしていく。そし  
て、日常から市民にとってわか  
りやすく親しめるみちにしてい  
くために、歩道や交差点の広場  
を拓けて歩行者空間として整備  
し、地区住民の手でサクラを植  
樹して、墨堤の桜を再生してい  
く。特に、子育て地蔵尊から白鷺  
神社へ至る旧墨堤之道は、その  
シンボル空間として整備し、遊  
歩道にしていく。

(11) 防災活動拠点会議を開く  
地区住民と防災関係団体が集ま  
り、災害における応急活動の態

え、及び防災まちづくり一般に  
関する制度や方法について認識  
を深めるために、学習活動をす  
すめていく。また、行政や地区  
内在住・在勤の専門家の協力を  
得て、相談会を開いていく。

(14) 防災まちづくりの功労者を表彰  
する  
建物の不燃化や塀の生け垣化、  
隅切りやまちづくり用地の提供  
など、まちの安全性やうるおい  
の向上に寄与した人を表彰して  
いく。



〈墨堤の桜を再生する〉

## 4

### 防災まちづくりの進め方

計画には、実現のしやすいものや  
しにくいもの、すぐできるものや  
時間のかかるもの、いろいろな内  
容がある。少しでもまちが安全に  
なっていくことが私たちの願いで  
ある。そのために、次の三つの原  
則にしたって防災まちづくりをす  
めていきたい。

(1) 住民同士の人のつながりを大事  
にしなから  
私たち住民の共通の願いを示し  
た計画だから、特定の人か犠牲  
になっはならない。これまで  
培ってきた人のつながりを大事  
にしなからすすめていく。

(2) できることから少しずつ、そ  
して具体的な計画を考えながら  
計画の実現をあせらない。具体  
的な実施計画について充分に議  
論を重ねながら、できるところ  
から少しずつすすめていく。

(3) 住民と行政が協力しながら、そ  
して互いに役割を分担しながら  
防災まちづくりは、住民だけで  
できるものではない。だからと  
いて、行政だけでやるもので  
もない。住民と行政が協力しな  
がら、そして互いに役割を分担  
しながらすすめていく。

昭和六十二年六月

一寺言問を防災のまちにする会

- 向島五丁目町会
- 向島五丁目東町会
- 東向島一丁目中町会
- 東向一南町会
- 東向島西元町会
- 堤通一丁目町会

「一寺言問の防災まちづくりをすすめる会」のついでに